

# 知るって楽しい！としょかん大人塾 第5回



## 新春！俳句を作ってみよう

「としょかん大人塾」第5回目は、俳句講座を行いました。  
当初予定していた1月24日が大雪となったため、一ヶ月遅れでの開催となりました。「新春」というには少し時期を外してしまいましたが、白梅・紅梅が咲き初め、うららかな日差しに春の訪れを感じながらの講座となりました。

講師には、八女文化連盟俳句部の堤呼秋先生をお招きしました。

先生は1920年生まれ。なんと、御年95歳！

若い頃に俳句の経験はなく、教師生活を退職してから学び始めたとのことですが、すでに俳暦は33年。現在も句会で後進の指導に当たるなど、現役の俳句の先生です。



今回は俳句初心者向けの講座ということで、俳句の基本の「き」から学びました。

俳句の二大条件のうち、一つは「五・七・五の定型」で表すこと。世界で一番短い詩と言われる俳句の、十七文字の形を作るためのルールです。

しかし、「嫉妬」は「し・つ・と」の3字で数え、「救急車」は「きゅ・う・きゅ・う・しゃ」の5字で数えるってご存知でしたか？思わず指折りながら数えてしまいました。



まずは五・七・五の形を作ってみよう！と、いきなり一句詠んでみることに。先生が、一人一人丁寧に添削して回られます。



最後に文体や仮名遣いなどのいくつかの「約束ごと」を学び、講座自体は終了。その後の質疑応答では受講生から「俳句と川柳のちがいは何ですか？」との問いがあり、先生は「俳句は季節を詠み、川柳は人事じんじを読みます」とお答えになりました。

人事は、生活や思いなど、人間に関わる題材のこと。なるほど、簡単に言えばそういう違いだったのか、と納得しきりでした。

俳句の二大条件のもう一つは「季語」。季節を表す言葉を、必ず一つ読み入れることです。

「春は桜、夏は夕立…その他にも季語を考えてみましょう」と言われても、これがなかなか思いつかない。

一年中同じ野菜が出回り、食べ物にも季節感を感じることができにくい時代になりました。しかし、窓外の何気ない風景にも季節を見出すような、そんな日本人的な感性を忘れずにいたいな、と感じました。



ありがとうございました！

受講生の皆さんからのアンケートの回答には、「脳トレになりました」、「懇切丁寧で要点もはっきりしていてよかった」、「ご高齢の先生の俳句に対する姿勢に目を見張る思いがしました」、「とても分かりやすく、俳句を作る意欲が湧いてきました。楽しかった」という感想が続々と。

先生のエネルギーが皆さんにも伝わったようですね。これを機会に、俳句で頭脳あたまも身体からだも健康で長生き！を目指したいものです。